



2002年にスタートした「ルワンダ子ども支援基金」事業はまもなく20年となります。そこでARCでは、開始当初に支援した子どもたちがその後どうなっていたかを追跡調査することいたしました。すでに社会人となって施設を出て行った人たちを探すのはとても難しいのですが、連絡が今でもつく人たちに話を聞いています。今日はその中から一人の青年をご紹介します。

ルワンダ子ども支援基金20年—支援を受けた子どもたちは今—

イラドクンダ・フェリックス

(IRADUKUNDA Felix, 1995年生まれ)



施設で育ったフェリックス

フェリックスが暮らしていたギシンバ・メモリアル・センターは、今から70年以上にも前からルワンダの孤児たちを受け入れていた民間の施設です。フェリックスの母親は、この施設で育ちました。のちに彼女は結婚して、ギタラマ県（現在の南部州ムハンガ郡）のプリンガへ移り住みました。

1993年にフェリックスの兄が生まれました。その直後の94年にジェノサイドが起こり、ルワンダ全土に広がりました。幼子を抱えて

彼女はジェノサイドをくぐりぬけてきました。当時の反政府勢力であったルワンダ愛国戦線（RPF、現在の政権与党）の反撃で、ジェノサイドは約100日間でおさまりました。フェリックスはその翌年の1995年にプリンガで生まれました。

しかしその後、彼の父親はジェノサイドに加担した容疑で刑務所に入れられました。生活に困った彼の母親は、2000年にフェリックス（当時5歳）と2歳上の兄を連れて、自分が育ったギシンバ・メモリアル・センターを訪れます。ちなみにこの施設は、ジェノサイドの時期に暴力から逃れたツチの人びとをかくまったことでも知られています。そしてフェリックスと兄はセンターにあずけられることとなりました。



ARCの支援を受けていた小学生時代のフェリックス



2003年ごろのセンターの子どもたち

のちに彼らの父親は亡くなり、母親は子どもたちを引き取りに来ま

した。しかし親類のほとんどがジェノサイドで亡くなっていて、誰も頼りになる人がいないことから、センターではフェリックスたち兄弟を受け入れ続けることにしたそうです。そして母親もセンターで掃除婦として働くこととなりました。

ルワンダ子ども支援基金で小学校へ

2002年にARCが開始した「ルワンダ子ども支援基金」によって、フェリックスと兄は小学校に通えるようになりました。

ARCの2003年度の記録によれば、その年に彼は小学校2年生になり、学校に行くのが大好きとのことでした。学校では、国語と算数でがんばって良い点を取り、クラスで2番になりたいと思っていますと話していました（なんで2番なんだ？）。彼は学校にも友だちがたくさんできて、一緒にサッカーをして遊ぶのが好きだったそうです。施設では食器を洗ったり、掃除をするのが日課で、彼は掃除をするのが好きだったそうです。その当時の将来の夢は、家を建てる建設の仕事をしたとのことでした。そういえばジェノサイドで孤児となり施設で暮らす子どもたちに絵を描いてもらおうと、家の絵を描く子どもがとて多かったです。施設で暮らす孤児たちにとって「家」や「家庭」というものへの強いあこがれがあったのかもしれない。

現在のフェリックスに話を聞きました

—学校での思い出はありますか？

「学校は施設とは違う社会があるんだなあって思った記憶がありますね。施設にもルールがあるんだけど、学校にはそれとはまたちよつと違う規則があるんだなあと思ったりしました。学校では機械の勉強が好きだったよ。小学校での思い出は、施設とは別の新しい友だちができたことがとても大きかったと思います。住んでいる施設とはまた違う経験を学校ではできませんでしたね。」

—現在はどうなお仕事をされているのですか？

「今はルワンダ国軍に入隊して軍務についています。最近まで軍の海外派遣に参加していました。子どものころから軍人にあこがれていました。大人になって入隊する機会を得ることができました。軍人になりたかった理由はこの国が好きだから。愛国心ですね。軍人としてこの国を守っていきたくと思っています。自分の住む地域では、若い人や子どもたちが助け合えるような社会づくりに関わっていきたくいですね。」

—ルワンダ子ども支援基金のサポートについてメッセージをお願いします！

「ARCの奨学支援にはとても感謝しています。おかげで学校に行くことができて、本当にありがとうございます。日本の皆さんが私や私のような子どもたちにしてくれたことに、心から感謝いたします。」

ルワンダ子ども支援基金事業の追跡調査を行っていきます！

ARCのルワンダ子ども支援基金も開始から20年になります。20年前はジェノサイドによる孤児たちへの奨学支援としてこの事業ははじまりました。ジェノサイドから27年がたち、そのころの子どもたちは社会に巣立っていき、ルワンダを支えていく青年世代になっています。そこで、かつて奨学支援を受けてきた子どもたちが今はどのように活躍しているかについて追跡調査を行い、このルワンダ子ども支援基金事業の検証も行っていきたいと思っています。追跡調査についてはARCの現地リサーチャーがインタビューと記録(写真、動画)を行っていくと思います。この追跡調査のためには現地リサーチャーを雇い、調査のための諸経費(移動費、通信費など)が必要になります。これにはおよそ700ドル(83,000円程度)が必要となり、「追跡調査サポート募金」を呼びかけさせていただこうと思います。サポートくださった方に、追跡調査の結果を写真や映像でご報告いたします。



現地リサーチャー イルデフォンス・ニヨンガナ

イルデフォンスは高校教師を経てギシンバ・メモリアル・センターの職員として、ARCとともに「ルワンダ子ども支援基金」のために活動していました。当時から、子ども達のことや教育のことを深く考えている人でした。その後センターの仕事を離れましたが、当時のセンターの子どもたちと交流も持っており、彼にARCの現地リサーチャーを引き受けてもらうことといたしました。

ルワンダ子ども支援基金 追跡調査サポート募金への応援をよろしくお願いいたします♪

※ お近くの郵便局(ATM)から 郵便振替口座 00250-2-57833 (口座名義人「アフリカ平和再建委員会」) までお願いいたします！

アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511号室 Tel./FAX: 03-3351-0892

ホームページ <https://www.arc-japan.org> (お問い合わせはホームページからできます)

